

石岡市ボランティア体験ワークキャンプ

楽しかった夏の思い出

天候に恵まれた8月21日から22日にかけて、合併後初となる石岡市ボランティア体験ワークキャンプが実施されました。

このワークキャンプは1泊2日の団体生活を行い、青少年が体験学習を通して社会福祉やボランティアについて理解を深め、社会性と自主性を培うことを目的として行われました。

ふれあいの里石岡ひまわりの館に集めた市内の中学生30名は開講式を行い、石岡市ボランティア連絡協議会の皆さんから、ボランティア活動の講話を受けました。実際にテープレコーダーに録音する朗読ボランティアの実践も体験することができました。

また、車椅子やアイマスクを使用した障害者体験を行うことで、障害者の気持ちへの理解を深め、かわり方を学ぶことができました。

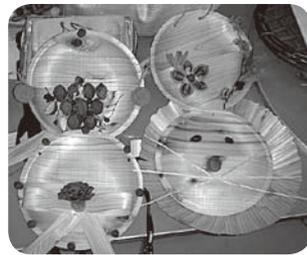
夜は茨城県立中央青年の家に移動し、間伐材を利用したレターラックを作り、環境の大切さも学びました。

2日目は特別養護老人ホームで高齢者とのふれあいを体験しました。最初は戸惑いがちだった生徒達も、入所者の皆さんの優しい笑顔に誘われるよう

に、次第にうちとけ、楽しく話すことができました。

その後、ひまわりの館に戻り点字体験を行いました。点字体験では機材に触れるのも初めてで、簡単な文章を打つにも時間がかかりましたが、文章が完成するととても大喜びでした。

最後に閉講式が行われ、記念撮影をし、2日間で学んだことや貴重な体験を胸に無事ボランティア体験ワークキャンプが終了しました。



リサイクル工芸で作られたレターラック

今回参加した30名の生徒達は、ボランティア体験、車椅子、目隠し歩行、高齢者との触れ合いなど初めて「福祉」に触れる体験をすることができました。人と人との支え合い、人と触れ合う時の優しさ、支えてくれる人の存在という福祉のこのころを感じてもらえたと思います。他人への思いやりを学んだ生徒達が、社会の中で福祉の芽を育ててくれるのを期待したいと思います。



リサイクル工芸

カッコいいのが出来るかな？



疑似体験

目隠し歩行に挑戦中！



施設にて実習

お年寄りと一緒に楽しそうに



点字体験

ボランティアより点字を学びます